



取扱説明書・保証規定

日本総輸入代理店
株式会社ウエニ貿易
ウエニ貿易タイムピース株式会社

〒110-0008 東京都台東区池之端1-6-17
時計部直通:TEL. 03-5815-5701 FAX. 03-5815-5301

サービスセンター
東京都台東区池之端1-6-13 境会館 2階
TEL. 03-5842-1159 FAX. 03-5815-8202

この度は『ZEPPELIN』をお買上げいただき誠にありがとうございます。
説明書をお読みの上、正しくお使いください。



ドイツのウォッチブランド『ツェッペリン』。
史上初の巨大飛行船と言われる ZEPPELIN 号をイメージした、
クラシカルなデザインと高精密な機能が特徴です。

目次

取扱上のご注意	3
タキメーターの使い方 パルスメーターの使い方	5
テレメーターの使い方 3 ハンズクォーツの使い方	6
パワーリザーブインジケーターの使い方	7
デュアルタイムビッグデイトの使い方	9
ムーンフェイズクォーツの使い方	10
GMT 機能の使い方	12
クロノグラフアラームの使い方	13
クォーツクロノグラフの使い方①	18
クォーツクロノグラフの使い方②	21
クォーツクロノグラフの使い方③	22
機械式時計について	24
3 ハンズオートマティックの使い方	25
オートマティッククロノグラフの使い方①	26
オートマティッククロノグラフの使い方②	28
ソーラークロノグラフの使い方	30
保証規定	34

取扱上のご注意

■温度について

時計を直射日光にさらしたり高温になる場所、また寒いところ等、温度差の激しい場所に長時間放置しないでください。進み・遅れ等の精度に支障をきたします。常温に戻れば精度は回復しますが、激しい環境は時計の寿命に影響しますので十分にご注意ください。

■ショックについて

ジョギング等の軽い運動程度のショックでは機械に影響はありませんが、キャッチボールやテニス等で生じるショックは出来るだけ避けてください。また、落下や激しい接触等のショックは与えないでください。

■お手入れについて

ケースやブレスレット(革ベルト)等の外装部分は常に人体に触れているため、たいへん汚れやすい部分です。外装部分に汚れ・汗・水滴がついているときは、吸湿性の良い柔らかな布で拭き取って常に清潔にしてください。メッシュブレス・ブレスレットの汚れや目詰まりがひどいときは、水にうすめた石鹼水などにつけて、手や歯ブラシで洗い、その後必ず水洗いを行ってください。金、銀等の貴金属製品は空気に触れることで表面が化学反応をおこし黒く汚れます。汚れたままでご使用されますと衣類等に汚れが付着する場合がありますので、特に清潔な状態を保つようにご注意ください。

※この時、時計本体に水がかからないように十分ご注意ください。

■磁気について

携帯電話・テレビ・ステレオ・電子レンジ等の家庭用電気製品や、家具やハンドバックに付いているマグネット等の近くや上に時計を放置しないでください。時計が磁気の影響を受けて、精度が乱れ、止まりや遅れの症状が出ることがあります。短時間の影響でしたら一時的な精度の乱れで、磁気を発する製品から遠ざければ回復します。改めて時刻を合わせてお使いください。なお、長時間影響を受けたり、短時間でも強い磁気の影響を受けると、時計の部品が磁気化されてしまうので、脱磁(磁気を消す作業)をしなければ精度は戻りません。その際は時計店にご依頼ください。磁界の強さは磁気を発生させる製品からの距離によって変わります。5cm離すだけでその影響は弱まります。



■電池交換について

電池寿命は平均約2年ですが、最初の電池は工場出荷時に組み込まれたモニター電池ですので、電池寿命に満たないうちに容量が切れることがあります。電池切れの際は最寄りの時計店にて電池交換を行ってください。但し保証書期間内であっても電池は消耗品ですので有料となります。

■裏ブタのシールについて

ご購入時に時計の裏ブタに添付してあるシールは必ずはがしてご使用ください。シールがついたままでご使用されますとサビが発生することがあります。

■防水性について

時計修理品として持ち込まれるものの多くに、水没・水の浸食があります。水の浸食による故障のほとんどは、ご使用上の原因によるものと思われまます。

水道の蛇口から出る水などは水圧が高く、水のかかり方によっては日常生活防水の時計でも水が浸食する場合があります。

また、防水性は年月とともに劣化します。電池交換時などに合わせて、定期的な防水検査をお勧めします。(時計の防水性を保つパッキンが、長時間の使用により温度や水分や汚れなどの影響を受け、弾力性が失われて防水性が低下する為)

使用例		汗・はねた水滴 がつく程度 (水圧のから ない状態)	雨や水が かかる程度 (極端な水圧の 変化がない状態)	水泳など 直接水が かかる程度 (プールでの水泳程度)	水滴が付いた 状態での リュウズの操作
仕様	3気圧, 5気圧 (3ATM 5ATM)	○	×	×	×
	10気圧 (10 ATM)	○	○	×	×



- お客様の体質によっては、かゆみ・かぶれが生じる場合がありますので、皮膚に異常を感じた時はご使用をお止めいただき、専門医にご相談ください。
- 汗や汚れが付着したまま使用しますと、サビなど衣類への汚れの原因になる恐れがあります。こまめなお手入れを心掛けてください。
- 力仕事や激しいスポーツをする時、就寝時や幼児の世話をする時など、身体に危害を及ぼす場合がありますので、ご注意ください。

タキメーターの使い方

クロノグラフ機能と文字盤の縁にある目盛りを使って、運動中の物体の速度や生産量の計測ができます。※クロノグラフ機能がないタキメーター付モデルは秒針で経過時間を確認し、目盛を使って計測します。

①1 キロメートル又は、1 マイルを車などで通過するときに要する時間を計測し、秒針が指すタキメーター目盛りが平均速度となります。

例 1) 高速道路を走行中、秒針が 12 時の位置から計測し、1 キロメートル走ったところで秒針が 12 時を指していた場合、すなわち 60 秒経過したとすると、タキメーターの目盛り "60" が平均速度で「60km/h」という事になります。また 1 キロメートルを 30 秒で走行した場合は目盛りが "120" です、平均速度「120km/h」という事になります。

②適当な測定数値を設定し、生産された時間を計測すれば、1 時間あたりの生産量が求められます。

例 2) 10 ケ生産するのに 20 秒かかったとします。そのときタキメーターの目盛りは "180" です、生産した数量 10 ケに "180" をかけたものが 1 時間あたりの生産量「1800」となります。

パルスメーターの使い方

秒針とパルスメーターの目盛を使って、心拍数の計測ができます。

秒針が頂点を指した時点から所定の数 (base に続いて記載されている数) の脈拍数を数え、その時に秒針が指すパルスメーターの数値が 1 分間あたりの脈拍数となります。

例) base30 と表示されている場合

秒針が頂点を差した時点から脈が 30 回打った時に、秒針が指したパルスメーターの目盛の数字を読み取ります。

テレメーターの使い方

テレメーターとは「光と音の速度差を利用して離れた二地点間の距離を計測できるクロノグラフ、またはその目盛のことをいいます。

使い方の最も簡単な例としては、打ち上げ花火で説明できます。

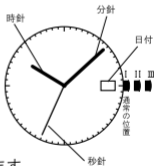
「花火が空中で光った瞬間にボタンを押し、破裂する音が聞こえた時点でもう一度押す」とその時に針が指したテレメーターの数値が自分から花火が開いた場所までの直線距離となります。

※クロノグラフ機能がないテレメーター付モデルは、光った瞬間と破裂する音が聞こえた時に秒針が指したテレメーター目盛をそれぞれ確認し、その差を計算して距離を求めます。

3 ハンズクォーツの使い方

■時刻の合わせ方

リューズを2段引き出し、Ⅲのポジションにします。秒針が止まりますので、リューズを回して時針と分針を合わせます。合わせ終わりましたらリューズを押し込んで、通常的位置（Ⅰ）のポジションにします。



■日付の合わせ方

リューズを1段引き出し、Ⅱのポジションにします。リューズを12時方向に回して日付を合わせます。合わせ終わりましたら、リューズを（Ⅰ）の位置まで戻してください。※月末が短い月（2,4,6,9,11月）は、翌月1日にその分だけ日付表示がずれますので、合わせてご使用ください。

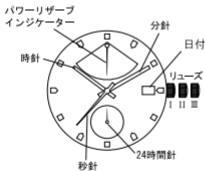
△
注意
ください!

針が午後9時～午前3時の間は、日付合わせを行わないでください。
この時間帯は日付を変更する歯車がかみ合っている時ですので、無理に調整されますと歯車が破損し、正しい時間帯に日付が切り替わらなくなる恐れがあります。日付調整を行う場合は、時針・分針をこの時間帯外に動かしてから、日付を調整してください。

パワーリザーブインジゲーターの使い方

対象モデル:7060/7062/7064シリーズ/7366-3/7368-5(Cal.9100/9132)

★この時計は自動巻です。リュースを手で巻くことでもゼンマイの巻き上げが可能で、5ページにあります“機械式時計について”の項も合わせてお読みください。



■パワーリザーブ・インジケーターについて
ゼンマイの持続時間を表示します。
最大に巻き上げた状態で約40時間動き続けます。

■時刻の合わせ方

リューズを2段引き出し、Ⅲのポジションにします。リューズを回して時針と分針を合わせます。合わせ終わりましたらリューズを押し込んで、通常的位置(Ⅰ)のポジションに戻してください。

※24時間針は時針に連動します。時針を合わせる際は、午前・午後を24時間針で確認した上で合わせてください。

■日付の合わせ方

リューズを1段引き出し、Ⅱのポジションにします。

リューズを12時方向に回して日付を合わせます。

合わせ終わりましたら、リューズを通常的位置まで戻してください。

※月末が短い月(2,4,6,9,11月)は、翌月1日にその分だけ日付表示がずれますので、合わせてご使用ください。

△
ご注意
ください!

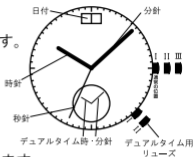
針が午後9時～午前3時の間は、日付合わせを行わないでください。この時間帯は日付を変更する歯車がかみ合っている時ですので、無理に調整されますと歯車が破損し、正しい時間帯に日付が切り替わらなくなる恐れがあります。日付調整を行う場合は、時針・分針をこの時間帯外に動かしてから、日付を調整してください。日付を合わせる際に午前と午後がずれていきますと、午後12時に日付が切り替わってしまいます。その場合は、時刻を12時間進めて午前・午後を合わせてからご使用ください。

デュアルタイムビッグデイトの使い方

対象モデル:7638/7640/7644/8644/8646 シリーズ (Ronda 6203.B)

■時刻の合わせ方

リューズを2段引き出し、Ⅲのポジションにします。
秒針が止まりますので、
リューズを回して時針と分針を合わせます。
合わせ終わりましたらリューズを押し込んで、
通常的位置 (I) のポジションにします。



■日付の合わせ方

リューズを1段引き出し、Ⅱのポジションにします。
リューズを12時方向に回して日付を合わせます。
合わせ終わりましたら、リューズを通常的位置まで戻してください。
※月末が短い月 (2,4,6,9,11月) は、翌月1日にその分だけ日付表示が
ずれますので、合わせてご使用ください。

⚠️ 注意ください! ⚠️
針が午後9時～午前3時の間は、日付合わせを行わないでください。
この時間帯は日付を変更する歯車がかみ合っている時ですので、無理に
調整されますと歯車が破損し、正しい時間帯に日付が切り替わらな
くなる恐れがあります。日付調整を行う場合は、時針・分針をこの時間帯外
に動かしてから、日付を調整してください。

■デュアルタイムの使い方

4時位置にあるリューズで6時位置にあるデュアルタイムが操作でき、
任意の箇所の時刻設定が可能です。
4時位置のリューズを1段引き出し、Ⅱのポジションにします。合わせ
終わりましたら、リューズをⅠのポジションに戻します。
※リューズを引き出した後は、必ず戻してください。

ムーンフェイスクォーツの使い方

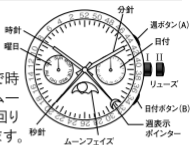
対象モデル: 7036/7039 シリーズ (Cal. 706B)

・月齢表示・週表示

■ムーンフェイス搭載モデル設定の手順

①ムーンフェイスを合わせます。

1. リューズを1段引き出した状態(図: II の位置)で時計回りに回すと、24時間に1回、午後7時頃にムーンフェイスが1コマ(1日分)動きます。反時計回りに回すと、ムーンフェイスが2コマ(2日分)戻ります。
2. 新聞等を参考に月齢を調べ、その位置にムーンフェイスがくるまで動かします。



—正確に合わせるには—

一番わかり易い満月もしくは新月を基準にします。直前にあった満月もしくは新月の日を調べて、ムーンフェイスを満月もしくは新月に合わせます。その後、満月もしくは新月の日と月齢を合わせる当日の日数差を計算し、その分だけリューズを回してムーンフェイスを進めます。

—月齢とは—

新月を0として、次の新月までの経過時間を1日単位で表したものです。周期は約29.5日で、月の満ち欠けの度合いを表します。ムーンフェイスはこの周期で動きます。

新月 (大潮)	上弦 (小潮)	満月 (大潮)	下弦 (小潮)

②曜日を合わせます。

リューズを1段引出し、Ⅱのポジションにします。

曜日は時針の動きに連動します。早送りをしたい場合は、時刻合わせの際に針を午後10時半と午前0時半の間を行き来させると曜日針が進みます。

③時刻を合わせます。

リューズを1段引出し、Ⅱのポジションにします。

リューズを回して時針と分針を合わせます。

合わせ終わりましたらリューズを押し込んで、通常的位置（Ⅰ）のポジションに戻してください。

④日付と週表示ポインターを合わせます。

本体側面のボタン(B)を押すことで日付表示が1目盛ごと進みます。

本体側面のボタン(A)を押すことで週表示が1目盛ごと進みます。

先の細いもので、ボタンに対してゆっくりと押してください。

以下の時間帯には、各針の合わせを行わないでください。

- ・日付合わせ：午後11時半から午前5時半
- ・週表示：土曜午後11時半から火曜午前1時
- ・切り替わりの前後3時間

この時間帯は、確信（日付・週表示）を変更する歯車がかみ合っている時ですので、無理に調整されますと歯車が破損し、正しい時間帯に切り替わらなくなる恐れがあります。調整を行う場合は、時針・分針をこの時間帯外に動かしてから各針（日付・週表示）を調整してください。



△
ご注意ください！

GMT機能の使い方

対象モデル:7642/7546/7646シリーズ(Ronda 505.24D/505.24H)

■時刻の合わせ方

リューズを2段引き出し、Ⅲのポジションにします。秒針が止まりますので、リューズを回して時針と分針を合わせます。合わせ終わりましたらリューズを押し込んで、通常的位置(I)のポジションにします。



■日付の合わせ方

リューズを1段引き出し、Ⅱのポジションにします。リューズを12時方向に回して日付を合わせます。合わせ終わりましたらリューズを通常的位置まで戻してください。※月末が短い月(2,4,6,9,11月)は、翌月1日にその分だけ日付表示がずれますので、合わせてご使用ください。



針が午後9時～午前3時の間は、日付合わせを行わないでください。この時間帯は日付を変更する歯車がかみ合っている時ですので、無理に調整されますと歯車が破損し、正しい時間帯に日付が切り替わらなくなる恐れがあります。日付調整を行う場合は、時針・分針をこの時間帯外に動かしてから、日付を調整してください。

—GMTとは—

異なる任意の2ヶ所の時刻を同時に示すことができる機能

■GMT針の合わせ方

リューズを1段引き出し、Ⅱのポジションにします。6時方向(手前)に回して、任意の時刻に合わせてください。GMT針(24時間で一周)と分針で、時刻を読み取ります。※リューズを引き出した後は、必ず通常的位置まで戻してください。

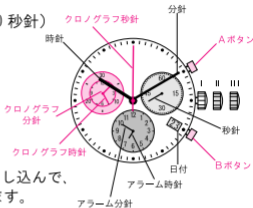
クロノグラフアラームの使い方

対象モデル:8680/7680 シリーズ/(Ronda 5130.D)

- ・クロノグラフ 12 時間計測
(クロノグラフ 12 時間 /60 分 /60 秒針)
- ・12 時間アラーム

■時刻の合わせ方

リューズを 2 段引き出し、Ⅲのポジションにします。秒針が止まりますので、リューズを回して時針と分針を合わせます。合わせ終わりましたらリューズを押し込んで、通常の位置 (I) のポジションにします。



■日付の合わせ方

リューズを 1 段引き出し、Ⅱのポジションにします。リューズを 12 時方向に回して日付を合わせます。合わせ終わりましたら、リューズを (I) の位置まで戻してください。※月末が短い月 (2,4,6,9,11 月) は、翌月 1 日にその分だけ日付表示がずれますので、合わせてご使用ください。



注意
ください!

針が午後 9 時～午前 3 時の間は、日付合わせを行わないでください。この時間帯は日付を変更する歯車がかみ合っている時ですので、無理に調整されますと歯車が破損し、正しい時間帯に日付が切り替わらなくなる恐れがあります。日付調整を行う場合は、時針・分針をこの時間帯外に動かしてから、日付を調整してください。

■ クロノグラフの使い方

※ご使用前にクロノグラフの針が0位置(12時位置)を指していることをご確認ください。ずれている場合は<0 修正機能>欄をご参照ください。



①A ボタンを押すと、クロノグラフ秒針が動き計測を開始します。

②再度 A ボタンを押すとストップします。
(①②を繰り返すと積算計測できます。)
最大 12 時間まで計測可能です。



③B ボタンを押すとクロノグラフ針がリセットされます。

<スプリットタイム計測>

—スプリットタイム機能とは—
測定は続けながら表示を止めて
途中までの経過時間を読み取る機能

- ①A ボタンを押してスタートさせます。
- ②B ボタンを押すとスプリット機能が働き、再度 B ボタンを押すと、計測中の時間を示します。
- ③A ボタンを押すと計測終了します。
- ④B ボタンを押してリセットします。

※スプリット計測中に A ボタンを押すとクロノグラフ機能が中断されます。
その場合は、B ボタンを 2 度押し、クロノグラフ針をリセットしてから、もう一度最初から計測してください。

<0 修正機能>

クロノグラフは複雑な構造となっており、電池交換後やショックを与えたりするとリセットしても針が 0 位置に戻らないことがあります。0 位置修正をしていただくことでずれた針を修正できますので、クロノグラフ針がずれた際は下記手順にて修正をしてからご使用ください。

- ①リューズをⅢの位置まで引き出します。
- ②A・B ボタンを同時に 2 秒以上長押しします。
クロノグラフ秒針が 1 周し、0 修正モードになります。
- ③A ボタンを押すとクロノグラフ秒針が 1 目盛りずつ動きます。
(※A ボタン長押しで連続運針) 0 位置まで合わせてから B ボタンを押します。
- ④A ボタンを押すと、クロノグラフ時・分針が連動して動きます。
(※A ボタン長押しで連続運針) 0 位置まで合わせます。
- ⑤リューズを押し込んでⅠのポジションまで戻します。

■アラームの使い方



アラームをご使用になる前にアラーム機能をご使用になる際には、参照時間を合わせる必要があります。参照時間と現在時刻を一致させた上で、アラーム時刻を設定してください。

<参照時刻とは？>

現在時刻は時針と分針を用いて表示されます。現在時刻と平行して、アラーム機能を動かす為の基準となる参照時刻が背後で進みます。

→アラーム時刻は参照時刻を参照しています。

このため、**現在時刻の変更は参照時刻の同様な変更を必要とします。**参照時刻が現在時刻と一致していない場合、結果としてアラームはセットした時刻と違う時間に鳴りますので、ご注意ください。

<参照時刻のセット>

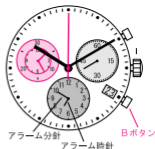
1. リューズをⅢの位置まで引き出してください。
(秒針が止まり、表示がアラーム時刻から参照時刻に変わります。)
2. セットモードの起動
B ボタンを 2 秒以上押してください。
アラーム分針がジャンプして 1 分進んだらこのモードが有効です。
3. B ボタン
短押 (1 秒未満) : 参照時刻が 1 分ずつ進みます。
中押 (1 ~ 2 秒) : 参照時刻が 1 時間ずつ進みます。
長押 (2 秒以上) : 参照時刻が B ボタンを離すまで進みます。
4. リューズをⅠの位置まで押し込んでください
(表示が参照時刻モードからアラーム時刻へ変わります。)
1 回のピープ音がアラーム OFF を示します。

※参照時刻を秒まで正確にセットする為には、秒針が《60》を指しているときにリューズを引き出してください。時針と分針がセットできたら、正確な秒数の時にリューズをⅠの位置まで押し込んでください。

<アラーム時刻のセット>

1. セットモードの起動

リュース (I) のポジションで、
B ボタンを 2 秒以上押してください。
アラーム分針がジャンプして 1 分進んだら
このモードが有効です。



2. セット

B ボタン短押 (1 秒以下) : アラーム時刻が 1 分ずつ進みます
B ボタン長押 (2 秒以上) : アラーム時刻が B ボタンを離すまで進みます

- ⚠ アラームはストップウォッチの作動中は使えません。
- ⚠ アラームセット中に B ボタンが 10 秒押されないと、アラーム時刻セットモードは OFF になります。同時にアラームが入ったことを示す 2 回のピープ音が鳴ります。

<アラームの ON/OFF の切り替え>

1. アラームの ON/OFF は B ボタンを押すことで切り替えられます。

2 回のピープ音 → アラーム ON

1 回のピープ音 → アラーム OFF

- ・アラームは希望時刻の最大 12 時間前にセット可能です。
- ・アラーム時刻になるとアラーム音が 20 秒間鳴ります。
- ・このアラーム音は 40 秒後に繰り返されます。
- ・アラーム音が鳴っている時に B ボタンを 1 回押すと、アラーム音はすぐに止まります。

クオーツクロノグラフの使い方①

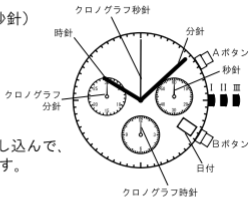
対象モデル:7084/7086/7088/7686/8892シリーズ (Ronda 5030.D)

※8892 シリーズには、日付機能はありません。

- ・ クロノグラフ 12 時間計測
(クロノグラフ 12 時間 /60 分 /60 秒針)

■時刻の合わせ方

リューズを 2 段引き出し、Ⅲのポジションにします。秒針が止まりますので、リューズを回して時針と分針を合わせます。合わせ終わりましたらリューズを押し込んで、通常の位置 (I) のポジションにします。



■日付の合わせ方

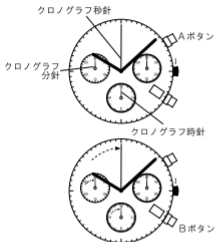
リューズを 1 段引き出し、Ⅱのポジションにします。
リューズを 12 時方向に回して日付を合わせます。
合わせ終わりましたら、リューズを (I) の位置まで戻してください。
※月末が短い月 (2,4,6,9,11 月) は、翌月 1 日にその分だけ日付表示がずれますので、合わせてご使用ください。



針が午後 9 時～午前 3 時の間は、日付合わせを行わないでください。この時間帯は日付を変更する歯車がかみ合っている時ですので、無理に調整されますと歯車が破損し、正しい時間帯に日付が切り替わらなくなる恐れがあります。日付調整を行う場合は、時針・分針をこの時間帯外に動かしてから、日付を調整してください。

■クロノグラフの使い方

※ご使用の前にクロノグラフの針が0位置(12時位置)を指していることをご確認ください。ずれている場合は<0修正機能>欄をご参照ください。



①A ボタンを押すと、クロノグラフ秒針が動き計測を開始します。

②再度A ボタンを押すとストップします。
(①②を繰り返すと積算計測できます。)
最大12時間まで計測可能です。

③B ボタンを押すとクロノグラフ針がリセットされます。

<スプリットタイム計測>

①A ボタンを押してスタートさせます。

②B ボタンを押すとスプリット機能が働き、

再度B ボタンを押すと、計測中の時間を示します。

③A ボタンを押すと計測終了します。

④B ボタンを押してリセットします。

※スプリット計測中にA ボタンを押すとクロノグラフ機能が中断されます。

その場合は、B ボタンを2度押し、クロノグラフ針をリセットしてから、もう一度最初から計測してください。

—スプリットタイム機能とは—
測定は続けながら表示を止めて
途中までの経過時間を読み取る機能

<0 修正機能>

クロノグラフは複雑な構造となっており、電池交換後やショックを与えたりするとリセットしても針が0位置に戻らないことがあります。0位置修正をしていただくことでずれた針を修正できますので、クロノグラフ針がずれた際は下記手順にて修正をしてからご使用ください。

- ①リューズをⅢの位置まで引き出します。
- ②A・B ボタンを同時に2秒以上長押しします。
クロノグラフ秒針が1周し、0修正モードになります。
- ③A ボタンを押すとクロノグラフ秒針が1目盛りずつ動きます。
(※A ボタン長押しで連続運針) 0位置まで合わせてからB ボタンを押します。
- ④A ボタンを押すと、クロノグラフ時・分針が連動して動きます。
(※A ボタン長押しで連続運針) 0位置まで合わせます。
- ⑤リューズを押し込んでⅠのポジションまで戻します。

クオーツクロノグラフの使い方②

対象モデル:8670/7674/7614/7616/7670シリーズ(Cal.6S21/6S11)

・ クロノグラフ 60 分計測 (クロノグラフ 60 分 / 60 秒針)

■時刻の合わせ方

リューズを 2 段引き出し、Ⅲのポジションにします。
秒針が止まりますので、リューズを回して時計針と分針を合わせます。合わせ終わりましたらリューズを押し込んで、通常的位置 (I) のポジションにします。

■日付の合わせ方

リューズを 1 段引き出し、Ⅱのポジションにします。
リューズを 12 時方向に回して日付を合わせます。
午後 9 時～午前 1 時の間は、日付は次の日に変わらないかもしれません。合わせ終わりましたら、リューズを (I) の位置まで戻してください。

■クロノグラフの使い方

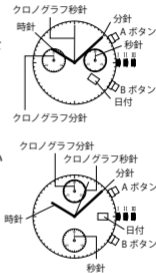
このクロノグラフは 59 分 59 秒を最大とし、
1/4 秒で時間を計って表示することができます。

- 1.A ボタンでクロノグラフを始動します。
- 2.A ボタンが押すたびに、クロノグラフを開始、停止できます。
- 3.B ボタンを押すとクロノグラフの分針、秒針がリセットされます。

■クロノグラフのリセットの仕方

クロノグラフの秒針が元に戻らない時の手順

1. リューズを 2 段引出しⅢのポジションにします。
- 2.A ボタンを押して秒針を 0 位置にして下さい。
3. 秒針を 0 位置にしたら時間を修正し、リューズを I に戻して下さい。



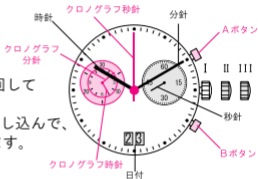
クォーツクロノグラフの使い方②

対象モデル:7386/7684/7686/7690/7784/8684シリーズ(Ronda 5020.B)

- ・ クロノグラフ 12 時間計測
(クロノグラフ 12 時間 /60 分 /60 秒針)

■時刻の合わせ方

リューズを 2 段引き出し、Ⅲのポジションにします。
秒針が止まりますので、リューズを回して
時針と分針を合わせます。
合わせ終わりましたらリューズを押し込んで、
通常的位置 (Ⅰ) のポジションにします。



■日付の合わせ方

リューズを 1 段引き出し、Ⅱのポジションにします。
リューズを 12 時方向に回して日付を合わせます。
合わせ終わりましたら、リューズを通常的位置まで戻してください。
※月末が短い月(2,4,6,9,11月)は、翌月1日にその分だけ日付表示が
ずれますので、合わせてご使用ください。

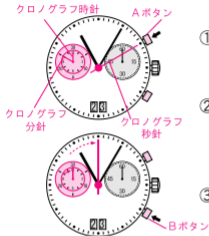


ご注意ください!

針が午後 9 時～午前 3 時の間は、日付合わせを行わないでください。
この時間帯は日付を変更する歯車がかみ合っている時ですので、無理に
調整されますと歯車が破損し、正しい時間帯に日付が切り替わらな
くなる恐れがあります。日付調整を行う場合は、時針・分針をこの時間帯外
に動かしてから、日付を調整してください。

■クロノグラフの使い方

※ご使用前にクロノグラフの針が0位置(12時位置)を指していることをご確認ください。ずれている場合は<0修正機能>欄をご参照ください。



- ①A ボタンを押すとクロノグラフ秒針が動き、計測を開始します。
- ②再度 A ボタンを押すとストップします。
(①②を繰り返すと積算計測できます。)
最大12時間まで計測可能です。
- ③B ボタンを押すとクロノグラフ針がリセットされます。

<スプリットタイム計測>

- ①A ボタンを押してスタートさせます。
- ②B ボタンを押すとスプリット機能が働き、再度 B ボタンを押すと、計測中の時間を示します。
- ③A ボタンを押すと計測終了します。
- ④B ボタンを押してリセットします。

※スプリット計測中に A ボタンを押すとクロノグラフ機能が中断されます。その場合は、B ボタンを2度押し、クロノグラフ針をリセットしてから、もう一度最初から計測してください。

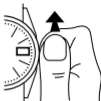
—スプリットタイム機能とは—
測定は続けながら表示を止めて
途中までの経過時間を読み取る機能

■手巻について

手巻きの時計は、1日1回、同じ時間帯にリューズが止まるまで巻き上げてご使用ください。

<手でゼンマイを巻く方法>

リューズをIのポジションで12時方向に回してください。巻き過ぎますとゼンマイが切れる恐れがありますので、これ以上巻けないという手応えがありましたら、それ以上巻き上げないでください。



時間精度：日差 ± 40 秒以内

※ご愛用者の生活パターンや姿勢差によっても、精度に多少の誤差が生じます。

■自動巻について

自動巻の時計はゼンマイを巻き上げる為に、約8時間腕に着けて日常生活や歩行をすることが必要になります。巻き上げが不足した場合は精度が不安定になりますので、遅れがでたり止まることがあります。

その際は、ゼンマイを巻き上げる必要がありますので、Iのポジションでリューズを12時方向に約20～30回程回してからご使用ください。特に長時間デスクワークをされる場合など、腕の運動量が不足し、時間に誤差が生じたり止まったりすることがありますので、注意が必要です。

時間精度：日差 ± 40 秒以内

※ご愛用者の生活パターンや姿勢差によっても、精度に多少の誤差が生じます。

機械式腕時計が、突然大幅に進んだり、遅れたり、止まったりする現象について

<精度が大幅に狂う原因>

「ヒゲゼンマイ」のからみによる場合が多いと云えます。ヒゲゼンマイは大変繊細な部品で、時計が何らかの強い衝撃を受けた場合は、隣接しているパーツにひっかかるか、ヒゲ自体が絡みあったりします。

ヒゲゼンマイは長さによって時間の進み・遅れを調節するパーツなので、ここに異常が起こるととんに大幅な狂いを生じさせます。ヒゲゼンマイの絡みをとり正常な状態に戻せば、精度は戻ります。



<ヒゲゼンマイが絡むことが多いケース>

時計自体の落下、腕に衝撃を加えるゴルフ・テニス・野球等のプレイ中に起こりやすい。或いはヒゲが磁気を帯びると、ヒゲ自体がくっつきあって大幅な時間の狂いが生じます。

3ハンズオートマティックの使い方

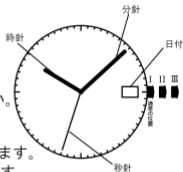
対象モデル:7652/7654/7664シリーズ(ETA Cal.2826-2)

★この時計は自動巻です。リューズを手で巻くことでもゼンマイの巻き上げが可能です。5 ページにあります”機械式時計について”の項も合わせてお読みください。

■時刻の合わせ方

リューズを2段引き出し、Ⅲのポジションにします。秒針が停止します。

リューズを回して時針と分針を合わせます。合わせ終わりましたらリューズを押し込んで、通常的位置(Ⅰ)のポジションに戻してください。



■日付の合わせ方

リューズを1段引き出し、Ⅱのポジションにします。

リューズを12時方向に回して日付を合わせます。

合わせ終わりましたら、リューズを通常的位置まで戻してください。

※月末が短い月(2,4,6,9,11月)は、翌月1日にその分だけ日付表示がずれますので、合わせてご使用ください。

⚠️
注意
ください
!

針が午後9時～午前3時の間は、日付合わせを行わないでください。この時間帯は日付を変更する歯車がかみ合っている時ですので、無理に調整されると歯車が破損し、正しい時間帯に日付が切り替わらなくなる恐れがあります。日付調整を行う場合は、時針・分針をこの時間帯外に動かしてから、日付を調整してください。日付を合わせる際に午前と午後がずれていますと、午後12時に日付が切り替わってしまいます。その場合は、時刻を12時間進めて午前・午後を合わせてからご使用ください。

オートマティッククロノグラフの使い方①

対象モデル:7618シリーズ(ETA Valjoux Cal.7753)

★この時計は自動巻です。リューズを手で巻くことでもゼンマイの巻き上げが可能です。5 ページにあります ” 機械式時計について ” の項も合わせてお読みください。

時間精度：日差 ± 15秒以内

■仕様

- ・クロノグラフ 12 時間計測
(クロノグラフ 12 時間 /60 分 /60 秒針)

■時刻の合わせ方

リューズを引き出し、II のポジションにします。リューズを回して時針と分針を合わせます。合わせ終わりましたらリューズを押し込んで、通常的位置 (I) のポジションに戻してください。

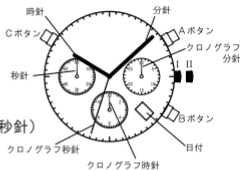
■日付の合わせ方

C ボタンを押して設定します。1 回押す毎に 1 日進みます。

※月末が短い月 (2,4,6,9,11 月) は、翌月 1 日にその分だけ日付表示がずれますので、合わせてご使用ください。

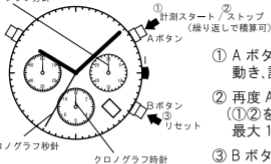
△
ご注意ください！

針が午後 8 時 30 分～午後 11 時の間は、日付合わせを行わないでください。この時間帯は日付を変更する歯車がかみ合っている時ですので、無理に調整されますと歯車が破損し、正しい時間帯に日付が切り替わらなくなる恐れがあります。日付調整を行う場合は、時針・分針をこの時間帯外に動かしてから、日付を調整してください。



■クロノグラフの使い方

クロノグラフ分針



※ご使用前にクロノグラフの針が
0位置(12時位置)を指している
ことと、リユーズが1のポジションで
あることをご確認ください

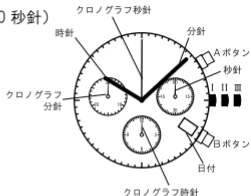
- ① A ボタンを押すとクロノグラフ秒針が動き、計測を開始します。
- ② 再度 A ボタンを押すとストップします。
(①②を繰り返すと積算計測できます。)
最大 12 時間まで計測可能です。
- ③ B ボタンを押すとクロノグラフ針がリセットされます。

オートマティッククロノグラフの使い方② 対象モデル:7624/7625シリーズ(SII NE88)

- ・クロノグラフ 12 時間計測
(クロノグラフ 12 時間 / 30 分 / 60 秒針)

■時刻の合わせ方

リューズを 2 段引き出し、Ⅲのポジションにします。秒針が止まりますので、リューズを回して時針と分針を合わせます。合わせ終わりましたらリューズを押し込んで、通常的位置 (I) のポジションにします。



■日付の合わせ方

リューズを 1 段引き出し、Ⅱのポジションにします。リューズを 12 時方向に回して日付を合わせます。合わせ終わりましたら、リューズを (I) の位置まで戻してください。

■ゼンマイの巻き方

1. 手巻き… I の位置でリューズを時計回りに回転させます。
※1 度に 55 回以上リューズを回すと故障します。
つめ車を 8 回以上回すと故障します。
2. 自動巻…回転速度 : 30rpm 運転速度 : 60 分

△ご注意ください!
針が午後 8 時～午前 2 時の間は、日付合わせを行わないでください。時刻合わせの時にクロノグラフが始まり時針と分針が同時に回転しますが故障ではありません。B ボタンを押してクロノグラフをリセットして下さい。通常的位置に戻ります。

■ クロノグラフの使い方

・ 標準測定

次の順番でボタンを押して下さい。



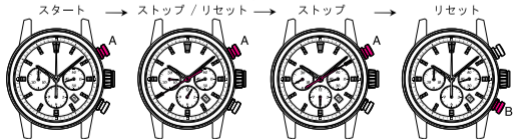
A ボタンを押すとクロノグラフがスタートし、クロノグラフ秒針が動き始めます。

もう一度A ボタンを押すとストップします。クロノグラフ針は経過時間を示します。※上図は6時間/20分/10秒計

B ボタンを押すとクロノグラフがリセットされます。全てのクロノグラフ針は0位置に戻ります。

・ 累積経過時間測定

次の順番でボタンを押して下さい。



※上図は1時間/8分/40秒計 ※上図は6時間/20分/10秒計

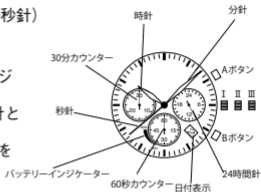
クロノグラフのリスタートとストップはボタンAを押すことで何度でも繰り返すことができます。

ソーラークロノグラフの使い方 対象モデル:8086 シリーズ/(VR42A)

- ・クロノグラフ24時間計測
(クロノグラフ24時間/60秒/30秒針)

■時刻の合わせ方

リューズを2段引き出し、Ⅲのポジションにします。秒針が止まりますので、リューズを回して時針と分針を合わせます。
合わせ終わりましたらリューズを押し込んで、通常的位置(Ⅰ)のポジションにします。



■日付の合わせ方

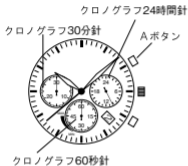
リューズを1段引き出し、Ⅱのポジションにします。
リューズを12時方向に回して日付を合わせます。
合わせ終わりましたら、リューズを(Ⅰ)の位置まで戻してください。

△
ご注意ください!

針が午後9時～午前3時の間は、日付合わせを行わないでください。
この時間帯は日付を変更する歯車がかみ合っている時ですので、無理に調整されますと歯車が破損し、正しい時間帯に日付が切り替わらなくなる恐れがあります。日付調整を行う場合は、時針・分針をこの時間帯外に動かしてから、日付を調整してください。

■クロノグラフの使い方

※ご使用前にクロノグラフの針が0位置(12時位置)を指していることをご確認ください。ずれている場合は<0修正機能>欄をご参照ください。



①A ボタンを押すと、クロノグラフが動き計測を開始します。

②再度 A ボタンを押すとストップします。
(①②を繰り返すと積算計測できます。)
最大24時間まで計測可能です。



③B ボタンを押すとクロノグラフ針がリセットされます。

<スプリットタイム計測>

—スプリットタイム機能とは—
測定は続けながら表示を止めて
途中までの経過時間を読み取る機能

- ①A ボタンを押してスタートさせます。
- ②B ボタンを押すとスプリット機能が働き、再度 B ボタンを押すと、計測中の時間を示します。
- ③A ボタンを押すと計測終了します。
- ④B ボタンを押してリセットします。

※スプリット計測中に A ボタンを押すとクロノグラフ機能が中断されます。
その場合は、B ボタンを 2 度押し、クロノグラフ針をリセットしてから、もう一度最初から計測してください。

<0 修正機能>

クロノグラフは複雑な構造となっており、電池交換後やショックを与えたりするとリセットしても針が 0 位置に戻らないことがあります。0 位置修正をしていただくことでずれた針を修正できますので、クロノグラフ針がずれた際は下記手順にて修正をしてからご使用ください。

- ①リューズをⅢの位置まで引き出します。
- ②A ボタンを押して針を時計回りに調整するか、B ボタンを押して針を反時計回りに調整します。
- ③リューズを押し込んでⅠのポジションまで戻します。

■バッテリーインジケータ

B ボタンを 1 秒以上押すと、バッテリーインジケータに充電量が表示されます。

■ 充電時間の目安

環境	明るさ (ルクス)	充電時間(約)		
		時計が停止してか ら充電完了まで	時計が停止してから 通常に動き出すまで	通常に動く状 態を1日保つ
屋内照明	700	—	26時間	103分
蛍光灯(30Wの下20cm)	3,000	77時間	6時間	22分
太陽光(曇天)	10,000	24時間	2時間	7分
太陽光(晴天)	100,000	8時間	1時間	3分

保証規定

時計をご使用中、正常な状態で自然故障が生じた場合は、下記保証規定によりお買い上げ日より2年間無償修理を行います。

■保証の対象になる部分

クォーツ時計の内部部分(電子回路、駆動系機械部分)、機械式時計の内部部分(駆動系機械部品一式)、ただし電池、革ベルト等の消耗品、ケース、ブレスレット類の小キズ、汚れやガラスの破損による外観の変化は除きます。

■保証方法

修理・調整を原則といたします。修理の際、ガラス・ケース・文字盤・針・バンド等は、一部代替品を使用させていただく場合がありますのでご了承ください。

■保証を受けるための条件

修理・調整の際は、必ず現品に保証書を添えてお買い上げ店にご持参ください。なお、保証書が添えてあっても、お買い上げ店名及びご購入日の記載のないものは無効とさせていただきます。

■保証の適用除外

保証期間内であっても次の場合は有料修理となりますのでご注意ください。

- 誤ったご使用、お客様自身による修理、改造または、お取扱いの不注意による故障。詳しくは、取扱いの項をご参照ください。
- 保証書のご提示がない場合。
- 保証書にお買い上げ店名、ご購入日の記載がない場合。また、保証書の記載事項に訂正のある場合。
- 天災、火災、事故による故障・破損の場合。

※保証書は上記保証規定により無償修理を保証するもので、お客様の法律上の権利を制限するものではありません。